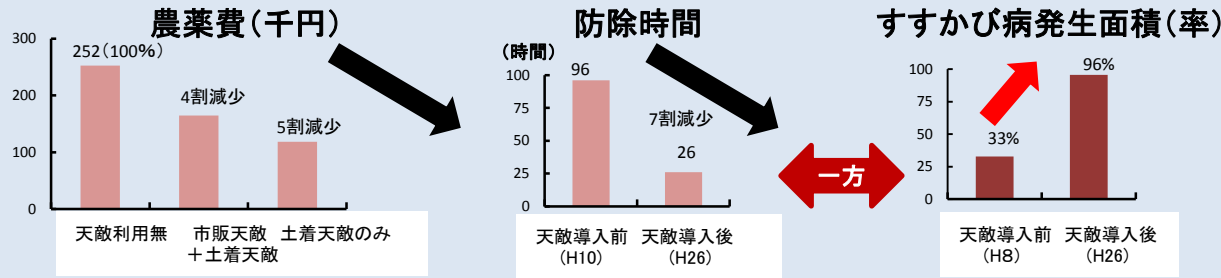


防除技術省力化の推進

安全・安心・高品質で選ばれる農産物の効率的な生産につながる、環境に優しい省力防除技術の開発・普及

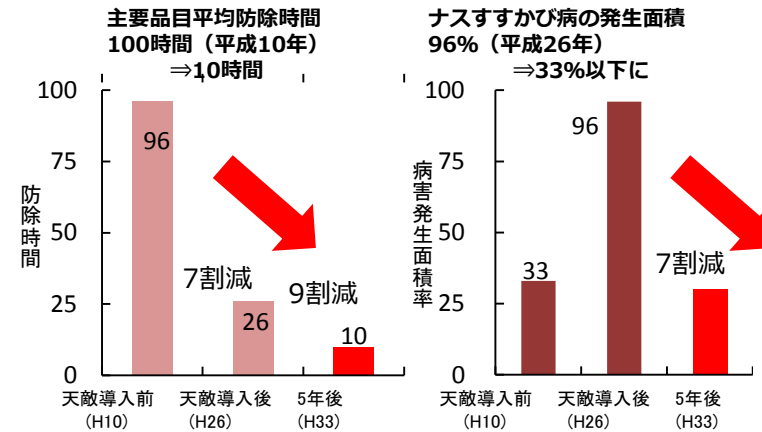
これまでのIPM技術開発



虫害防除は天敵利用により低コスト化、省力化を実現
 薬剤費5割減、防除時間7割減、一方、病害の発生は増加傾向

目標

防除時間 ⇒ 9割削減
 病害発生面積率 ⇒ 7割削減 (H33)



(例) 手動での薬剤散布60分/10a ⇒ くん煙剤10分 ⇒ 揮発油剤1分
 常温煙霧10分

課題

- ・ 省力的な病害防除技術 & 農薬登録が不足
- ・ 農薬の登録には多くの試験、多額の経費が必要で年数がかかる

1剤、1千万円必要

- ・ 夜間に無人で防除できる「常温煙霧機」で使用できる農薬や揮発油剤等の登録が必要
- ※ 常温煙霧機で使用でき、効果の期待できる農薬登録は3剤のみ
- ※ メーカーは登録拡大に慎重
- 【登録には経費必要、散布には専用機が必要 (常温煙霧)】

対策

環境に優しく、省力的に防除できる農薬登録を増やす

- ・ 県から日本植物防疫協会等へ登録試験を委託

日本初

経費負担でメーカーも登録へ前向きに！
 通常4年 ⇒ 1年と期間短縮！

環境制御等による省力的な防除技術の開発 (農業技術センター)

- ・ 緑色光、近紫外線照射
- ・ 施設内環境制御による湿度管理 (ヒートポンプ + ミスト) ⇒ ナス、ピーマン、ミョウガ等の病害防除



開発された防除技術を普及推進

- ・ 開発された省力的な防除技術 ⇒ 各農業振興センターに実証展示圃を設置し、普及推進

※ 環境保全型農業推進事業補助金により緑色灯、常温煙霧機等の導入支援